資料3-3

ICTイノベーション創出の取り組み

2013年3月28日

KDDI株式会社

取締役執行役員専務

嶋谷 吉治



目次

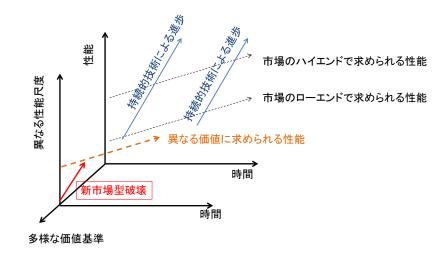
- 新しいイノベーションの考え方
- KDDIのイノベーション創出の取り組み
- これから取り組んでいくべき技術領域
- 国への標準化・研究開発支援の期待



新しいイノベーションの考え方

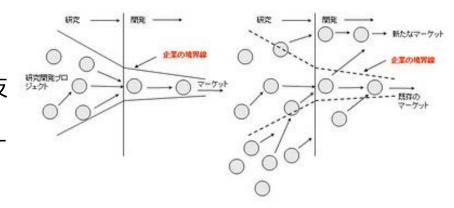
■ クリステンセンの「イノベーションの解」

大企業は戦略的に正しいことをするがゆえに 衰退していく。プロセスイノベーションはベンチャー企業から生まれる。変革のためのビジネスモデルが重要である。



■ チェスブロウの「オープンイノベーション」

自社のビジネスのために外部のアイデアと技術をもっと使い、自社で使わないアイデアを他社が使うようにすべき。外部のアイデアと技術を外から流入させ、内部のナレッジを外に流出させるため、自社ビジネスをオープンにすることが求められる。





新しいオープンイノベーションの動き

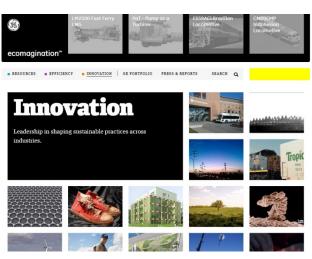
Google Glass

2月20日、メガネ型コンピューター端末「Google Glass」のプロジェクト参加者を募り始めた。選ばれれば、開発版のグーグルグラスを1500ドルで購入する資格を得られる。(7日間で応募者33,000人)

■ GE「エコマジネーション・チャレンジ」

2010年 環境分野で有望なアイディアを 集めて起業を支援するプロジェクト。ベンチャーキャピタルと組んで総額2億ドル。世界中からビジネスアイディアを募集して優れたものに投資。3800件以上の応募で23社(Suntulit社(エアコンコントロール), e.quinox社(エネルギー&水), PlotWatt社(電力メータ)など)が実際に起業。





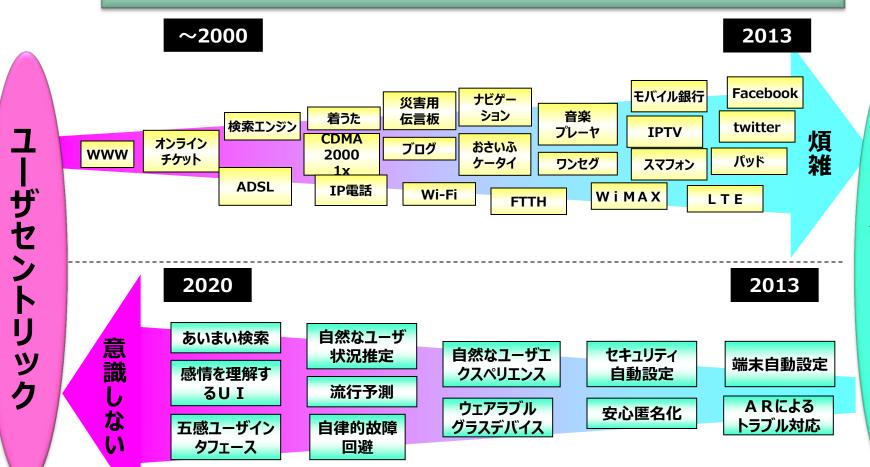
技術だけでなくビジネスアイディアそのものを外部に広く公募



シーズオリエンテッドテクノロジーオリエンテッド

KDDIが考える ユーザーセントリックICT 技術シーズから、 ニーズ起点(ユーザセントリック) でイノベーション

サービス進化の歴史、煩雑さも増加



煩雑さを最小に、あなただけのユーザセントリック

KDDIのイノベーション創出の取り組み KDDI∞Lab

■ ビジョン・コンセプト KDDI CO Labo

KDDI ∞ Laboは、グローバルに通用するインターネットサービスをつくり出していく 起業家・エンジニアを支えるためのスキーム。KDDIの有する開発環境を最大限 に活用して、サービス開発と経営支援の双方から専門的なアドバイスを提供する とともに、出資・事業提携も視野にいれた支援を行っている。

■ これまでの取り組み

- 現在までに4期までの募集
- 3 期までに14の新たなサービスがスタート
- 第4期にHTML5枠を設定、下記を募集。
 - HTML5の特徴を活かしたサービス
 - HTML5の特徴を活かしたサービスを効率的に開発するツ

■ 特徴

- 定期的な外部有識者のメンターのアドバイスを受けて、 3か月の短期間でβ版リリースを目指す。
- 事業化・経営についてのアドバイスも行う。

第3期のサービスアプリ例





















KDDIのイノベーション創出の取り組み AR-SDK(SATCH)

SATCH

モバイルARアプリケーション開発を容易するため、KDDIが総合開発環境を開発者へ無償提供。ARの日常化を目指す。

- 第1回SATCH人間コンテスト(グランプリ:アプリ開発支援100万円)
 - 期間:2012年2月7日~3月末日
 - ARの可能性を追求するとともに、ARをより身近な存在とするアイデアの発掘を目指して開催
 - 応募総数:100件、開発登録者数:1,600名
 - グランプリ:ARレントゲン、準グランプリ:とびでる塗り絵



グランプリを受賞したARレントゲン制作チーム須子氏



第1回グランプリ作品ARレントゲン



KDDI研究所 シリコンバレーオフィス

■ 海外での"Open Innovation" の推進



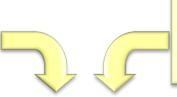
- めざすべきゴール
 - お客様に新しい価値体験、サービス、技術を提供すること。
- 重点分野
 - 3Mを推進するアプリ、ビッグデータ、UI/UX、ヘルスケア、教育
- 活用方法

発掘したスタートアップ企業の技術とKDDI研究所の技術とのシナジー効果でイノベーション創出

これから取り組んでいくべき領域 :無線技術

新しい市場の胎動

M2M、アプライアンス、制御 クラウドからのヒューマンアシスト

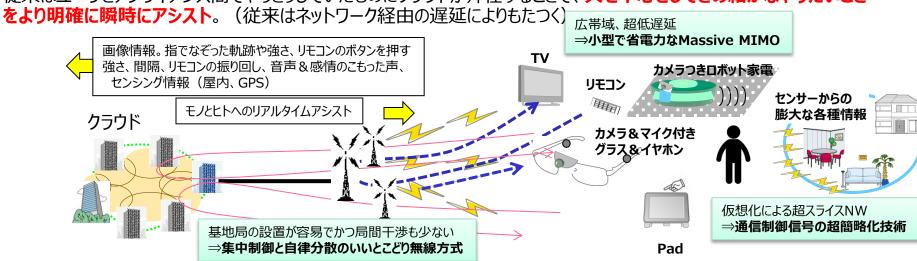


高い周波数の特徴

広帯域 小型でも高性能の無線機小さいセル(宅内だけ、店舗だけ)

ユーザの多様なニーズ・ウォンツに応える新しい無線技術

従来はユーザとアプライアンス間でやりとりしていたものにクラウドが介在することで、人を中心としてきめ細かなやりたいこと



次に来るべき無線技術(LTEの次)への要求

真のリアルタイム通信

⇒ 超低遅延、広帯域、帯域保証

常時接続、様々なPUSH通信

⇒ 極限まで通信制御信号を削減

建物の隅々まで電波が届くこと

⇒ バックホールのあるところに自由にAPを設置してもNWが接続可能

これから取り組んでいくべき領域: 業種を越えたデータ活用

これまで個別に取り扱われてきた「モノ」の情報を、業種を越えて組合せたり再利することによる付加価値創造が期待される。国際標準化のoneM2Mの動きに応じて、業界を超えた新しいサービス創造。

業種内に閉じたサービス









インターネット、無線LAN、 ZigBee、携帯電話網等



人を中心とした新サービス



統合型ソリューション



これから取り組んでいくべき領域 : セキュリティ技術

人に優しく、 安心 安全を実感できる ネットワーク環境

- ネットワークセキュリティ/サイバー攻撃対策技術
 - 国際連携によるサイバー攻撃の予知技術の研究開発(総務省委託)
 - 国際連携による攻撃観測網構築、観測情報解析技術、状態可視化技術
 - ドライブバイダウンロード攻撃対策フレームワークの研究開発(NICT委託)
 - 悪性Webサイト検知のための利用者参加型大規模観測網構築
 - Telecom ISAC JAPANを通じたISP間情報共有・連携



国への標準化・研究開発支援の期待

■ 業種・業界を超えた研究開発の協業ができる体制や仕組みの促進

医療・教育・農業・・・をICTを使ってユーザーセントリックな世界を作るために研究開発の省庁間の連携

■ 既に オープンデータ戦略で検討がスタートしているが、匿名 データの活用を推進するための規制緩和

■ 技術の変革を先読みした、無線の規制制度変更の改革

例:どんな無線システムでも対応可能な究極のSDR無線端末は現制度では認証が取れない



あたらしい自由。

